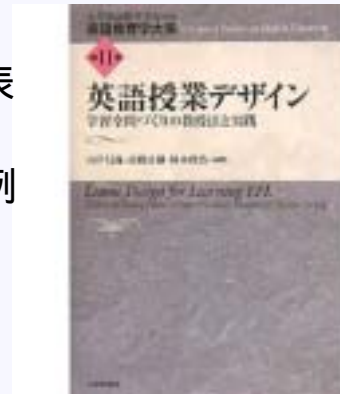


## 本日用意した資料

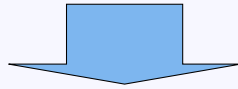
1. パワーポイント配布資料(本資料)
2. 事前参加者アンケート
3. 山岸他編(2011)目次
4. Communicative Approach関連年表  
(山岸他編著, 2010:34-35)
5. Humanistic Approach授業実践事例
6. Humanistic Approach取組後の  
学生の感想



2

## 「コミュニケーション」をめぐる4つの視点

1. コミュニカティブ・アプローチ(以下CA)の歴史的経緯と言語観
  2. 日本における「コミュニケーション」重視の実状
- 
3. 英語授業と教室におけるコミュニケーションの性質
  4. 「国際化」の視点と英語授業の特質
  5. 日本の青少年の現状



日本の教室環境に適した「コミュニケーション」活動の一事例

### Humanistic Approach(HA)

効果の検証

CAの経緯

## CAの歴史と周辺の動き

- アメリカ合理主義 (1945 ~ )  
言語理論の発展と限界  
行動主義心理学から認知心理学へ
- 欧州機能主義と欧州連合 (EU) の出現と発展  
(1962 ~ )
- 学習指導要領 (1989)  
「コミュニケーション」導入  
「実践的コミュニケーション」

資料4 アメリカ合理主義と欧州機能主義の流れ、および日本国内の動き 4

行動主義真理学に対する批判が高まり、認知主義心理学やそれを背景とした言語理論の台頭。これと並行したCA関係の諸理論の発生。日本ではNotional Funtionalを中心とした言語活動が「コミュニケーション」として導入された。「コミュニケーション」活動は、英語学力低下の原因の1つとして考える見方がある。

CAの経緯

## Communicative Approachの定義

- コミュニケーションの側面に焦点をあてた教授法。問題は**Communicativeの意味が定まった評価を受けていない**(中略)さまざまな**特徴や理念**を包括したアプローチ(高橋,1995: 244)
- コミュニケーション能力の養成を中心目標にした教授法の総称。1つの独立した教授法を指すものではなく、概念・状況、相互交流中心、オーソニック教材の積極的利用、およびコミュニケーション・タスクの活用などの特徴を持つ**教授法全般を表す名称**(白畑他著, 1999:65)
- 1970年代以降言語の機能面を重視した**考え方**(山岸他編著, 2010: 16)

5

CAは、Communicative Language Teachingとも称されるが、明確な定義や特定の指導法を指すものではない。「本家本元」の「コミュニケーション」すら、明確な定義がなかった。

## 活動の特徴

1. 情報転移の原則 (電話の内容をメモする等)
2. 情報ギャップの原則 (相互の情報の差)
3. ジグソーの原則 (情報の整理と一貫性)
4. タスク依存の原則 Task-based Instruction
5. 内容重視の原則 Content-based Instruction

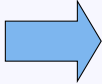
1. 技能統合(integration)、2. インフォメーション・ギャップ、3. ジグソー、4. コミュニケーション活動、  
5. 文法軽視 に対応

## CAの言語観

## CAにおける言語観

- 共同体 (EU) の維持発展のための言語政策および言語観
- ヨーロッパの成人にとって最低限必要限度の英語による意思疎通能力 ニーズ分析

Approach:	言語観や言語学習観についての理論
Method:	アプローチを具現化した教授法
Procedure:	授業の中で何をどのように行うのかの手順
Technique:	授業の1つ1つの活動に用いられる指導技術
Harmer(2001)	



言語観・言語学習観のない教授法や指導はない

7

## 日本におけるCA適用の問題点

- ✓ 言語観抜きの言語使用
  - 小中高を貫く「買い物」表現
  - 部分的に限定された目的論(検定試験、受験)
  - 学力論争の迷走化
- 発話への積極性

8

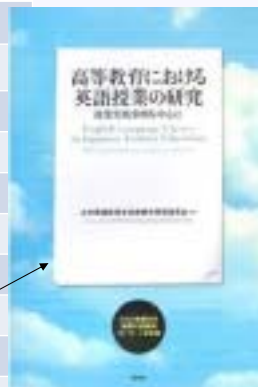
アジア諸国全般において、言語観に対する意識が低いと言われる。言語観は目的論と密接に関連しており、言語観に思しい場合明確な学習目的が引き出しにくい。「コミュニケーション活動」の問題点が指摘されるが、CAの問題ではなく、日本における適用の仕方の問題であるとも言える。



## 英語授業学と日本の実情

## 高等教育における「英語授業学」関連研究の経緯

年	著作等
1983年	若林(1983:186-187)
1984年	若林他共編(1984)
1990年	若林俊輔教授還暦記念論文集編集委員会編(1990)
1991年	松畑(1991)
2001年	『「英語教育の推進について」の検討素案』(2001)
2004年	「田辺メモ: 大学英語教育の在り方を考える」(報告) 大学英語教育学会授業学研究委員会発足
2007年	大学英語教育学会授業学研究委員会編著(2007)
2010年	大学英語教育学会第二次授業学研究委員会発足 山岸他編著(2010)



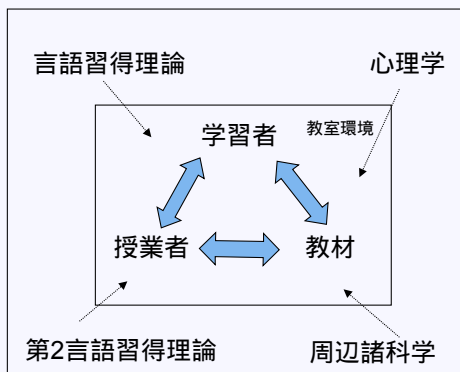
明確な定義がない

鈴木(2011a:54)より

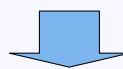
9

• 英語授業学研究

「すぐれた英語授業」「よりよい英語授業」の要因を教室環境における学習者・授業者・教材の関わり等から体系化する学問領域

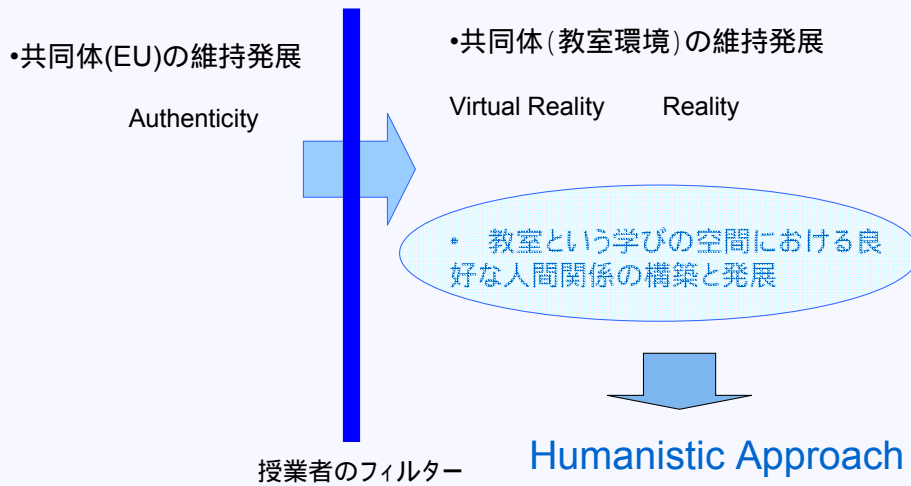


周辺理論、海外の理論の引き写し



教室環境に有意義であるかを授業者の言語観や学習者把握にもとづき判断する

# CAの言語観 英語授業への適用



## 活動のねらい

時期区分	活動
前期 出会いの時期	互いのよい点を知り合う活動
中期 仲良くなり始めた時期	共通点や相違点を知り、認め合う活動
後期 振り返りの時期	互いの価値観の交流、仲間への感謝の気持ちを伝える活動

## 活動事例 (前期: 出会いの時期)

活動	内容	特徴的感想
活動1 肯定的な形容詞を使った 自己紹介	ペアとなった相手に対し、 肯定的な形容詞のリスト から相手の印象を選び会 話を完成させペアワーク に取り組む。	嬉しかった 楽しく取り組み、仲良くなれた 自分の思う印象と異なる
活動2 色のイメージと相手の印象 を結びつけた会話練習	相手の選んだ色から連想 する相手の印象を言い合 う。	相反する感想 たくさん色があった方がよい 迷う 意外だが嬉しい 自分に合っ ているとは思えない
活動3 相手の外見(服装)をほめ る活動	相手の着ている服に対す る印象を肯定的な形容詞 から選びほめてあげる。	活動1、2より取り組みやすい 友だちの輪が広がった もっといい服を着てくればよかつ た

導入順序: 活動3 活動1 活動2 (活動2はもう少し仲良くなってから)

この時期は、友だちからのコメントと自分自身に対する印象のギャップが大きいことがあるため配慮が必要。また、男女による活動の差なども大きい。クラスの親密さの度合いに応じて行動の導入時期や順序を考える。特に「出会いの時期」には配慮が必要。

## 活動事例(中期:仲良くなり始めた時期)

活動	内容	特徴的感想
活動4 好きな番組・映画	好きなテレビ番組や映画が何かを相手に聞く。聞かれた相手は、どのように面白いかを相手に伝える。	下宿のためテレビがない、学業とアルバイトで忙しいためテレビはあまり見ないなどの理由から特筆する感想なし。 好きな歌手、歌、CDをテーマにし、それにまつわる思い出や理由を伝える。
活動5 尊敬するひと・あこがれのひと	自分の尊敬する人やあこがれのひとから思い浮かべる形容詞を書き出し、自分との共通点を指摘してもらおう。	あこがれの人は自分の目標である場合があり、「嬉しい」と感じる感想があった反面、現実の自分との違いを強く意識した学生もいた。
活動6 大切な人へのプレゼント	家族・友だち・大切な人を思い浮かべ、今プレゼントしたいものを考えて相手に伝える。	会話そのもの以上に、プレゼントしたい理由で盛り上がった。各自が思いやりの気持ちをもってプレゼントを考えていることを共有し合った。

中期の活動には「そう思った根拠」を付け加えさせる。

活動4:「好きな番組や映画」というテーマは、「そうなんだ」と納得して終わり発展性がない。「好きな歌、歌手、CD」などの方が、思い出や体験とつなげることができる。

活動5:自分に対する認識とのギャップを埋めるために具体的な場面を思い起こさせたり、理由を書かせる。

活動6:プレゼントは大切な人への思いに意外性があり楽しい活動になる。

活動事例 (後期:振り返りの時期)		
活動	内容	特徴的感想
活動7 究極の選択 (価値のランキング)	リストにある語句を、大切な順番に並べて相手に伝える。その理由を交流し合う。	共通点と価値観の相違が際立ち、お互いの考えた理由について深く考える感想が多い。
活動8 仲間の印象	半期を振り返り、周りの仲間に相手に対する印象を伝える。	活動1や活動2に取り組んだ時期とは比較にならないほど仲間のコメントを肯定的に受け入れていた。
活動9 Thank you letters	半期を振り返り、周りの仲間に感謝のことばとその理由を述べる。	嬉しい、英語だと気持ちを伝えやすい、良いところを認め合うのは素晴らしい、友だちの大切さ、友だちが増えた、感謝の気持ち、英語のコミュニケーションに積極的になれた、自信がついた、英語力がついた、等々

15

活動9の感想、前期取り組んだ感想は資料2, pp.5-6を参照。

## HAの成果

### 情意面の成果

- 授業で友だちが増えた。
- 日常の小さな気付きや発見は価値あるものであると感じた。
- 友だちの表層ではなく、内面に目を向けることができるようになった。
- 自分の価値に気付いた。学内外の活動に積極的になった。

### 語学学習面の成果

- 語彙の定着が進んだ(エピソード記憶)。
- コミュニケーションが楽しいと思えるようになった。
- 教室内外で英語を使ってみようという勇気が出た。

資料6 Humanistic Approach取組後の学生の感想

16

「コミュニケーション」活動が、友だち同士を知り、結びつけることにつながった。友だちの内面に目を向けつつ、自分の価値を知ることで、授業外の活動にも積極的に取り組むようになった。

友だちと、友だちの印象をあらわす単語をセットにして覚えることで定着が促進した。英語を使うことへの抵抗が減った。



## HAの歴史と経緯

### Humanistic Approach

- Moskowitz(1978): 自尊感情を高める外国語学習(数ヶ国語の外国語による実践)、自殺や非行などの社会問題化が背景

### その後の展開

- Communicative Approachとの接点(長澤, 1988)
- 縫部(1986): 構成的グループエンカウンター
- 授業内コミュニケーション(米山, 2003)、における内省的コミュニケーション(鈴木, 2011a)
- 企業研修等での活用 鈴木(2011)より

17

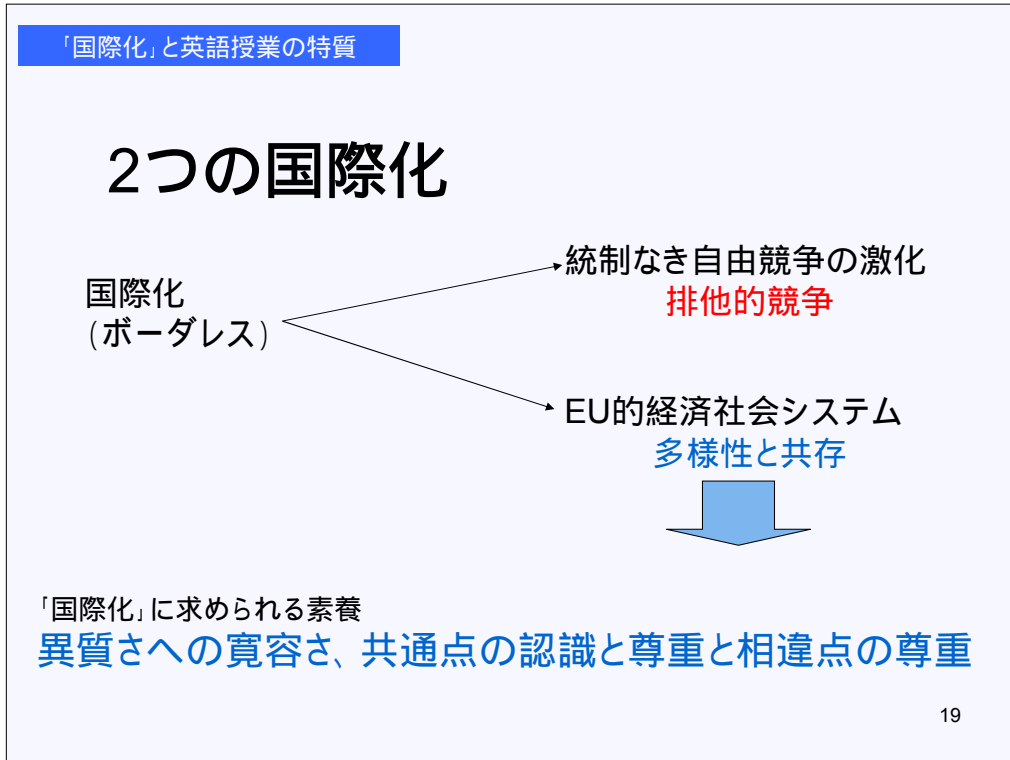
Humanistic Approach(以下HA)とは、Moskowitz(1978)がまとめた指導法で、自尊感情を高めながら、他者の価値を認めるように学習者を導く外国語の指導法である。会話練習や英文を書く取組を通じて、仲間や仲間の価値を理解し、人間的理解を深める活動である(鈴木, 2010:39)。

## CAの原則とHAの活動

1. 情報転移の原則  
相手の発話や書いた英文を理解し応える
2. 情報ギャップの原則  
自分や友だちの価値感の共通点や相違点の認識
3. ジグソーの原則  
観察・内省・交流
4. タスク依存の原則  
具体的な場面やテーマを想定した言語活動
5. 内容重視の原則  
自分や友だちの価値感や内面世界の共有

18

HAとCAに接点を認める長澤(1988)の立場



少子高齢化がこれ以上加速すれば、排他的競争原理はいずれ破綻することは明確であろう。さまざまな国や地域・人種・宗教・習慣などに対する知識を吸収し、より多くの人たちと交流を深める姿勢や態度が求められる。

「国際化」と英語授業の特質

## 学習指導要領における「英語」の特質

学習指導要領におけるキーワード比較(外国語と他教科の比較)

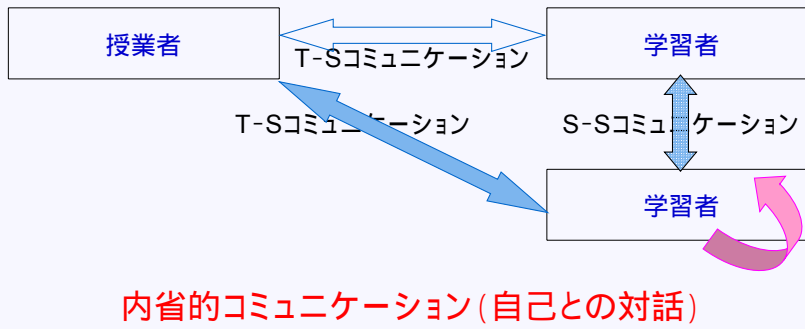
教科	キーワード
英語	言語や文化、積極的・実践的コミュニケーション、自分の考え、言語活動、4技能、自分の気持ちや考え、ペアワーク・グループワーク、教材、世界の人々、多様な見方考え方、公正、心情、国際理解、国際社会、日本人としての自覚、国際協調
国語	自分の考え、4技能、言語活動、教材、国際理解、日本人としての自覚、国際協調
社会	国際社会、特殊性と共通性、他民族の文化や生活、国際協調
数学	(数学的)表現
理科	知識の理解および知識相互の関連の理解
音楽	心情、教材
美術	心情、日本および諸外国、相違と共通点、国際理解
保健体育	公正

鈴木(2011: 45)を改定 20

「英語」は、他の教科と比較してみると、さまざまな要素を含みこんでいる。言語教育という点で「国語」と、国際理解等では「社会」と、表現や多様性では美術等の教科と接点がある。

授業内コミュニケーションにおけるHAの特徴

## 授業内コミュニケーション



鈴木(2011a)より 21

コミュニケーション活動は、「自己との対話」があってこそ実りあるものになる。コミュニケーション活動の前にじっくり考え、コミュニケーション活動の後にじっくり振り返ることが広い意味での人格形成につながる。

日本における青少年の現状

## HAと現代日本の青少年 (HAの今日的意義)

1. 「勉強がきつい」。
2. 「友達とうまくいかない」。
3. 「自分の気持ちを言語化して伝達する」という対人スキルが未発達。
4. 自信に乏しく、自己決定の能力も弱い。

財団法人一ツ橋文芸教育振興会・財団法人日本青少年研究所(2009)

1. 日本は、教科書中心的な授業である。
2. 現在している勉強は実質的な効果がない、競争や入試のための勉強でもない。
3. 外国語が好きであるとする高校生の割合は半分に満たない。
4. 勉強は「社会人としての基本的」しかし「いやでもしなければならない」。

財団法人一ツ橋文芸教育振興会・財団法人日本青少年研究所(2010)

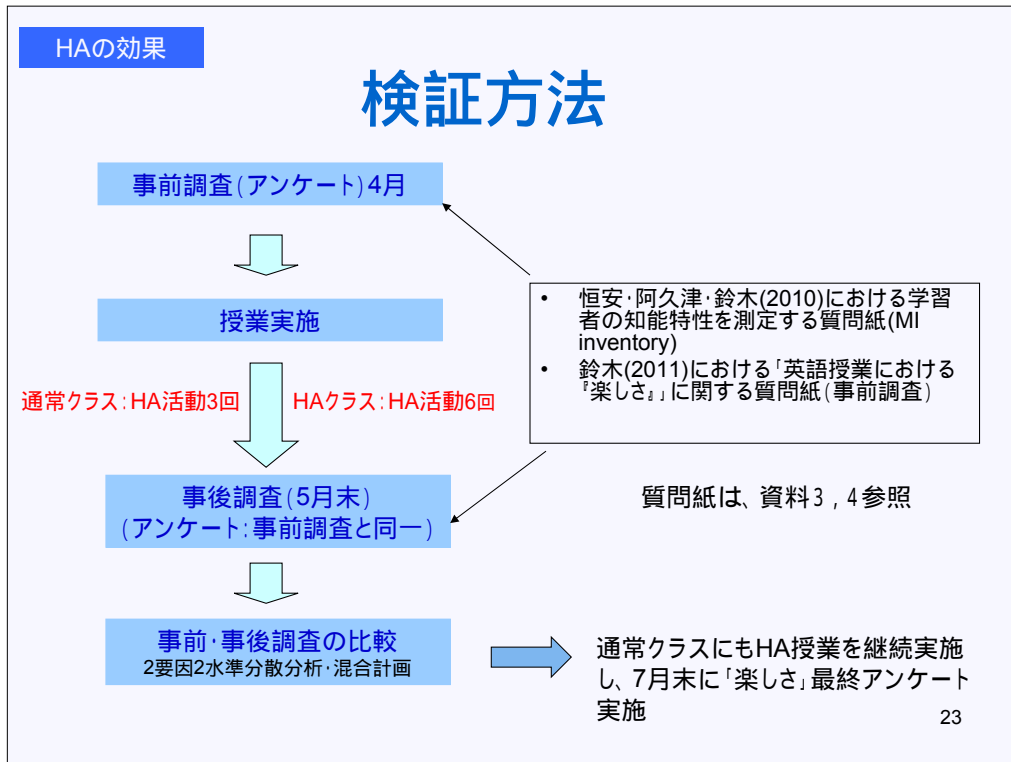


自分ってなかなか(自尊心) 勉強だって(学習意欲)  
学力の回復

22

「学校に行きたくない」と思った中学生のうち、6割以上が「勉強がきつい」。米中韓に比べて、「友達とうまくいかない」。日本の中高生は「自分の気持ちを言語化して伝達する」という対人スキルが未発達。日本の生徒は自信に乏しく、自己決定の能力もほかの国より弱い。

韓国と日本は、教科書中心的な授業である。日本の高校生は、現在している勉強に対して実質的な効果があると評価していないと同時に、競争や入試のための勉強という見方もしていない。日本では外国語が好きであるとする高校生の割合は半分に満たない。日本では現在している勉強に関して「社会人としての基本的な勉強だ」とする割合と「いやでもしなければならない勉強だ」の割合に大きな差がない。



対象者: 西武文理大学(サービス経営学部・看護学部)の1年生

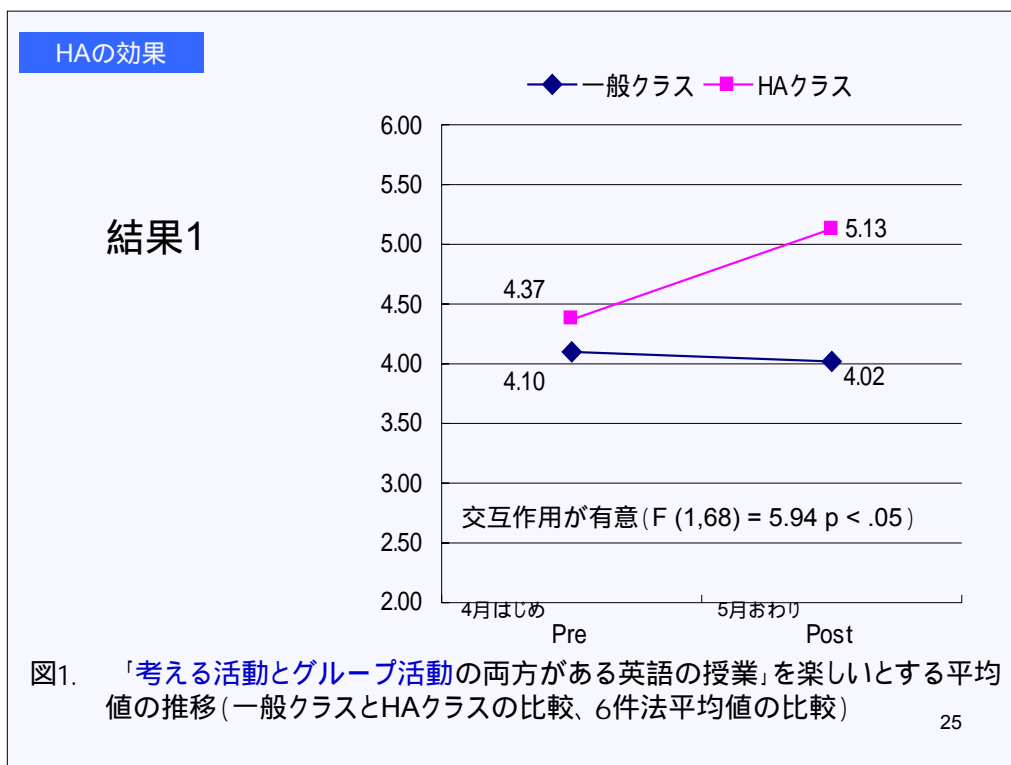
授業: 英語のうち30分程度を利用(その他60分をテキストに充当)

評価: HAの授業については、仮想会話文作成を試験に追加。

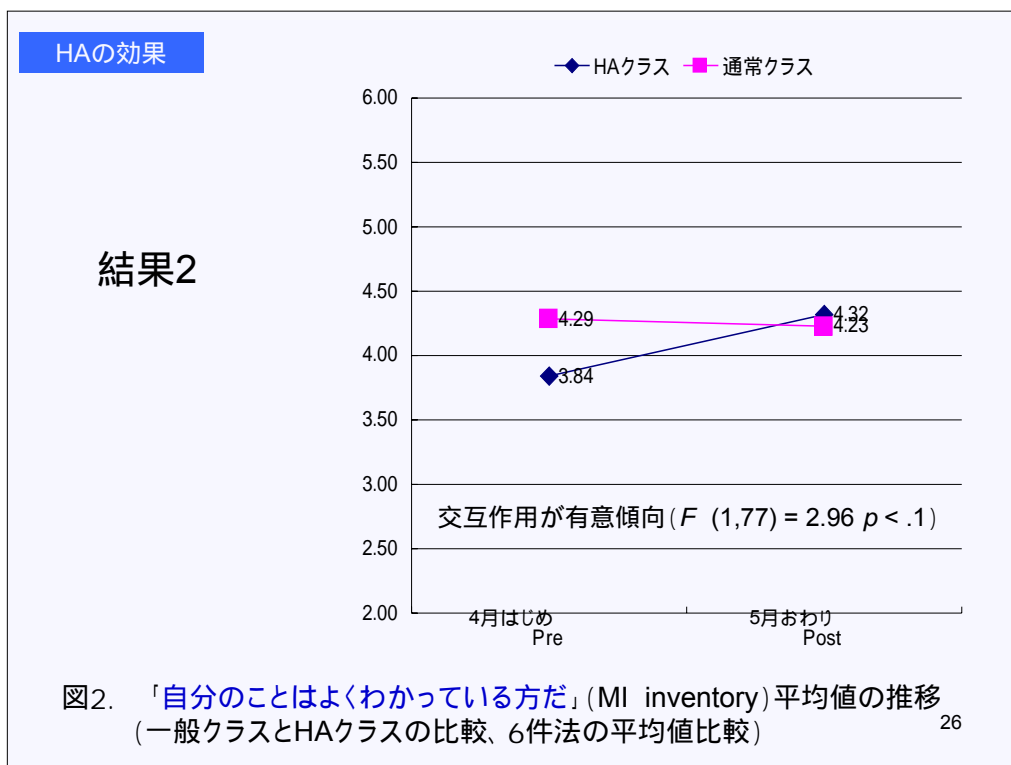
## 実施期間および対象者

- 2011年4月から5月
- 埼玉県内の私立大学1年生74名  
(HA授業のクラス32名、通常クラス38名)

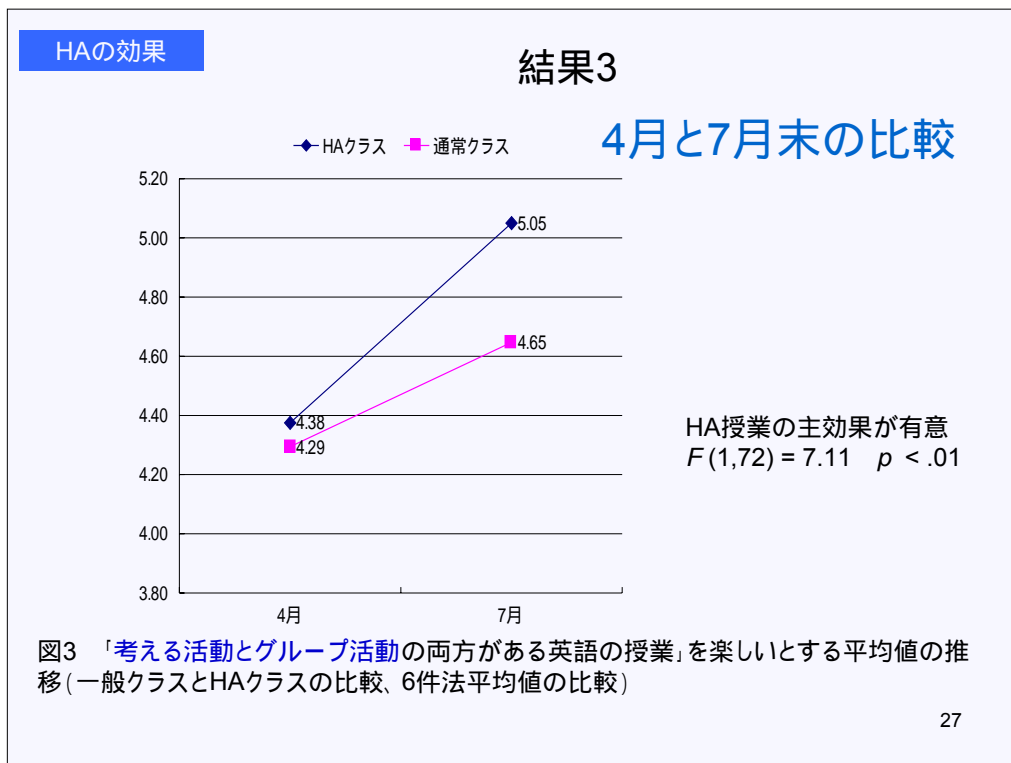




英語授業の印象に関しては、鈴木(2011)の質問紙における「考える活動とグループの活動の両方がある英語の授業」を楽しいとする質問項目に関して交互作用を確認した。



MI inventoryの質問項目では、「自分のことはよくわかっている方だ」について、有意傾向であるが交互作用を確認した。 $p = .68$ であり、もう少し長期的に取り組むと有意に交互作用が確認できた可能性がある。



4月の事前アンケートと7月末の最終アンケートの両方に回答した対象者のデータを使用。導入時期が早いHAクラスは通常クラスに比べて伸びが顕著である。これは導入時期が早かったことから、4月に築いた良好な人間関係の中でその後の授業が進んだためと考えられる。

## HAの効果

1. 教室内の友だちを知ることが英語によるコミュニケーションを促進する。
2. 共通点や相違点を知ることによって、異(多)文化を受容する態度が養われる。
3. 自分の価値を認めってもらうことで自信が付き(自尊心)。
4. 内省的コミュニケーションは、じっくり考える機会を増やし、**思考能力を高める**ことにつながる。

「静と動が交互にある授業」「じっくり考える授業」は学力を形成する上で重要であり、内省的コミュニケーションを促進する活動は学力形成につながると考えることができる。

## まとめに換えて

- 1.「ことば」はコミュニケーションのツールであると同時に人間性形成(自尊感情・他尊感情形成)のツールでもある。
- 2.英語授業におけるコミュニケーション活動の目的は、人と人、教室内の友だち同士を内面のレベルで結びつけることである。
- 3.英語授業のコミュニケーション活動で重視したいのは、互いの共通点や相違点を認識・尊重し、自己の価値を見出す能力の育成である。
- 4.英語授業でコミュニケーション活動に取り組むと教室外の活動にも積極的になるという波及効果が期待できる。

29

授業者個々の言語観に応じて英語授業におけるコミュニケーションの目的や意義を考えることが重要。Humanistic Approachにおけるコミュニケーション活動では、このような目的やねらいを想定することができる。

## ホームページ情報等

- 鈴木政浩のホームページ  
< Humanistic Approach関連の実践研究 >

<http://msuzuki.sakura.ne.jp/>

- 国際教育研究所ホームページ  
< よりよい英語授業研究の情報 >

[http://www.geocities.jp/international\\_education\\_inst/index.html](http://www.geocities.jp/international_education_inst/index.html)

- 鈴木政浩 メールアドレス: [suzuki6111@gmail.com](mailto:suzuki6111@gmail.com)

プレゼン資料等のダウンロードが可能です。

30

英語教育学大系第11巻 本日2割引です。

## 関連文献・資料等

- Moskowitz, G. (1978) *Caring and Sharing in the Foreign Language Class*. Rowley, MA: Newbury House.
- 縫部義憲(1986)『教師と生徒の人間づくり - グループ・エンカウンターを中心に』瀝々社
- 鈴木政浩(2010)「コミュニカティブ・アプローチの今後の課題」山岸信義他編(2010)『英語授業デザイン 学習空間づくりの教授法と実践』33-43 大修館書店
- 鈴木政浩(2011a)「『外国語(英語)』の特性と青少年の実状からみた人間的アプローチの必然性」『紀要』第17号, 40-60 国際教育研究所
- 鈴木政浩(2011b)「英語授業の『楽しさ』を構成する要因に関する研究 英語授業学からのアプローチ」第35回関東甲信越英語教育学会神奈川研究大会(口頭発表)
- 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則(1995)『英語教育用語辞典』大修館書店
- 恒安眞佐・阿久津仁史・鈴木政浩(2010)「多重知能理論に基づく授業実践事例」山岸他編『英語授業デザイン 学習空間づくりの教授法と実践』180-196 大修館書店
- 米山朝二(2003)『英語教育指導法事典』研究社
- 高橋貞雄(1995)『Communicative Language Teaching(CLT)コミュニカティブ・ティーチング』田崎清忠責任編集『現代英語教授法総覧』大修館書店
- 財団法人一ツ橋文芸教育振興会・財団法人日本青少年研究所(2009)『中学生・高校生の生活と意識調査報告書 日本・米国・中国・韓国の比較』
- 財団法人一ツ橋文芸教育振興会・財団法人日本青少年研究所(2010)『高校生の勉強に関する調査報告書 日本・米国・中国・韓国の比較』

## 参考文献

- 大学英語教育学会(JACET)授業学研究委員会編著(2007)『高等教育における英語授業の研究 - 授業実践事例を中心に』松柏社
- 松畑熙一(1991)『英語授業学の展開』東京:大修館書店
- 森住衛(1980)「楽しい授業とは何か」『英語教育』4月号, 56-57 大修館書店
- 鈴木政浩(2011a)「『英語授業学』研究の今日的課題 — 英語「授業研究」と比較して —」『言語教育研究』創刊号 55-65 桜美林大学
- 鈴木政浩(2011b)「大学における『楽しい』授業の創り方」『新英語教育』No.501, 10-12
- 若林俊輔(1983)『これからの英語教師—英語授業学的アプローチによる30章』東京:大修館書店
- 若林俊輔・森永誠・青木庸效 共編(1984)『英語授業学 [指導技術論]』東京:三省堂
- 若林俊輔教授還暦記念論文集編集委員会編(1991)『英語授業学の視点 若林俊輔教授還暦記念論文集』東京:三省堂
- 山岸信義・高橋貞雄・鈴木政浩編(2010)『英語授業デザイン 学習空間づくりの教授法と実践』大学英語教育学会監修 英語教育学大系第11巻東京:大修館書店